



**基本理念** この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

**「rTMS (反復経頭蓋磁気刺激療法) の紹介」**

院長 福治 康秀

皆さん、rTMSをご存知でしょうか。反復経頭蓋磁気刺激療法 (repetitive Transcranial Magnetic Stimulation) の略称で、磁気刺激により、うつ病患者さんの症状を改善する治療法です。日本においては、2017年9月に承認された治療法で、マスコミ等でも紹介されていますので、ご存知の方も多いと思います。

この度、当院にて、このrTMS治療を開始することとしました。沖縄県において初めての保険診療となります。

この治療法は、治療抵抗性うつ病に効果のある治療法です。具体的には、既存の抗うつ薬による薬物療法によっても、期待される治療効果が認められない中等症以上の成人 (18歳以上) のうつ病 (うつ病エピソード、および反復性うつ病性障害) が対象疾患となります。抗うつ薬だけでなかなか改善をみない患者さんが一定の割合でいますが、その方々にこの治療法を届けるべく、導入することとしました。

その機序ですが、コイルに流す電流によって形成される磁場変動にともなう渦電流により、主として大脳皮質の神経軸索を低侵襲的に刺激し、大脳皮質の活動性を変化させることで治療を行うというものです。磁気刺激により、大脳皮質を刺激し、うつ症状の改善を図るといったイメージで良いと思います。

治療時間は1回当たり約40分で、週5回程、トータル15回から30回の治療となります。

なかなかうつ症状の改善がみられない患者さんがおられましたら、ぜひご検討ください。

関連機関のみなさんとさらにしっかり連携し、この治療法を届けたいと考えています。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

経頭蓋磁気刺激装置



出典：帝人ヘルスケア株式会社

**● 地域医療連携室だより**

精神保健福祉士 松田 司

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。

一般精神をはじめ、アルコール依存症を含むアディクション全般、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。

また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい医療を提供し、適切な対応ができるよう心がけております。

初診をはじめ、受診については予約制となっておりますので、ご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

**院長**



ふくじ やすひで  
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本森田療法学会理事。日本病院・地域精神医学会評議員。琉球大学医学部 臨床教授。

**診療科**

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリン外来
- ・アルコール依存症等外来

**病床数**

353床

- ・精神 (一般精神・クロザピン専門・精神科救急) 151床
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



**路線バス** 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

**自動車** 那覇市から40分沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

**お問い合わせ**

**時間** 8:30 ~ 17:15 (土・日・祝日・年末年始以外)  
**TEL** 098-968-2133(代)  
**内線** 231・234

**地域医療連携室 (直通)**

**TEL** 098-968-3550  
**FAX** 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



## クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、登録症例数は延べ417例になりました。2024年6月のCLZ新規登録症例は2例で、うち1例は他施設に通院中の患者さんでした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ(<https://www.drugs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

## 医療観察法病棟紹介

西Ⅲ病棟 看護師長 湧川 傑

当病棟は医療観察法の指定入院医療機関として運営しています。医療観察法は、心神喪失または心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った者が裁判所の命令で入院し、病状の改善と同様な他害行為の再発防止、社会復帰を促進することを目的に入院治療する病棟です。また、医師・看護師・心理療法士・作業療法士・精神保健福祉士の5職種で、チームを編成し専門性の高い治療を行っております。また、急性期・回復期・社会復帰期の治療ステージだけでなく、疾患、重複障害などの個別性に合わせた多様な治療プログラムを提供しています。

開棟17年が経過し、以前は県外の方も多く入院されておりましたが、全国的に医療観察法が整備され、現在は沖縄県の方を中心に受け入れており、那覇保護観察所や県内の指定通院医療機関、地域支援者と連携し、社会復帰を促進しています。



## 外来

外来 看護師長 伊敷 史子

当院外来部門においては、統合失調症や双極性障害の他、アルコール依存症やギャンブル依存症に対しての専門的診療治療、こどもの発育・発達に関連する悩みや心の悩みに対して、こども心療科がごさいます。当院外来では、専門的な知識を持ったスタッフが患者さんに寄り添い、患者さんの意向に沿った治療・看護を目指しています。医師をはじめ、看護師・心理士・薬剤師・栄養士・作業療法士・精神保健福祉士といった多職種が治療に関わることで患者さんがその人らしさを取り戻す手助けを行っています。ぜひ御家族だけで悩まずにいつでも外来・地域連携室へご相談ください。

## こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

こども心療科では、ADHDに特化した内容のペアレントトレーニングプログラム「ウェル・ペアレント・ジャパン (Well Parent Japan: WPJ)」を実施しています。WPJは、研究で親への効果が実証されているプログラムで、その実証研究を長年行ってきたOISTの島袋静香博士が2024年度の文部科学大臣表彰を受賞されましたが、7月の新聞でも論文が「Journal of Child and Psychiatry」という国際的な科学雑誌に掲載されたことが記事になりました。

当院で実施したプログラムでも、ADHDの特性がある子どもの保護者のみなさんが、グループの中でお互いの体験や気持ちを共有し合ったり、関わりのアイデアを出し合ったりする中で、お子さんへの理解が深まり、関わり方が変わっていく様子が驚かされています。今年度も、グループの開催に向けて準備を進めており、より多くの人にADHD特性のある方のことを理解してもらえればと考えています。

## 重症心身障がい部門

療育指導室長 金城 安樹

西Ⅰ病棟は7/9に宜野座村の漢那農村公園、西Ⅱ病棟7/11に惣慶並松公園に院外活動へ行ってきました。

天候は快晴で暑さ厳しい状況でしたが、日陰で冷たいものを召し上がり、ご家族と過ごされ久しぶりの外出を楽しむ事ができました。

今年度から院外活動へご家族の参加も可能となりました。ご家族との貴重な時間を過ごして頂ければと思います。

行事や外出が特別な時間として、利用者の皆様に提供できるよう今後も計画してまいります。

